

1. 自己評価及び外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	個人尊重や地域、家族との連携を大切にす る理念、それに関連した社是をホーム内に 掲示し、常に意識する環境を作りをしてい る。また社内研修の折には理念の共有に力 を入れている。(各人年1回以上研修あり)	人としての尊厳を守ることを理念とし、更に社是として共 生・協働・感謝を掲げている。これら理念、社是の遂行に は、年に一度全職員による研修会を持ち、自己の反省 及び改善に努め、きめ細かなケアの実践に結び付けて いる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自身が地域の一員として日常的に交 流している。	福祉ひろばへの参加や、中学校や短期大学 との交流を通して、馴染の関係作りを努め ている。また、近隣住民の協力を得て、夜間 想定避難訓練を実施している。	利用者も隣組の一員として交流し、区費も負担し回覧板 等により地域情報を得ている。地域・施設の行事・作業 への住民の参加、中学校・短大生との交流等地域住民 との繋がりを密にし利用者の地域住民としての役割を果 たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている。	交流中学校や地区公民館等での認知症講 話を実施した。また会社全体として松本市内 小規模事業所向け研修の企画実施してい る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評 価への取り組み状況等について報告や話し合い を行い、そこでの意見をサービス向上に活かして いる。	事業所の利用情報や取り組みを隔月開催 で報告している。夜間想定避難訓練では、 運営推進会議で上がった意見、助言を基に 実施できた。	町会長・民生委員・消防団・行政・駐在所・家族・包括支 援センター等の皆さんに運営推進委員になって貰い定 期的に会議をもち、業務の反省、改善事項について意見 を聞き、施設の運営に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え ながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	会議等の参加を積極的に呼びかけている が、参加に至らない現状がある。担当地域 包括支援センターとは協力できている。	会議等への参加を積極的に呼びかけている。包括支援 センターとは日頃から綿密に連携を取りながら、行われ ているケア内容やこれからの取り組みなどについて相談 されている。	施設での利用者の生活環境を行政も充分把握 しなければならない事と思います。利用者の生 活ぶり等会議で様々なアドバイスが頂け、綿密 な連携が取られることを更に希望します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解して おり、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる。	社内で身体拘束に関連した研修を行ない、 全職員に周知徹底している。ただ、幹線道 路に面しており、安全配慮のため通用門の 施錠をしている現状はある。ホームから庭に は自由に出られる環境であり、家族、地域 の理解は得られている。	交通量の多い幹線道路沿いにあり、利用者の安全を図 るため門扉は施錠されている。門扉までのアプローチは 長く、庭や菜園畑等で自由にくつろげる環境になっ ている。閉塞感是最小限に抑えている。外部に出たい利用者 については職員が同行し、本人の意志に沿うよう対応し ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につい て学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、 防止に努めている。	社内で虐待防止に関する研修を行ない、虐 待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している。	成年後見制度を利用している利用者がある ため、職員は制度の理解はできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に十分な説明をしている。変更、改定等の際も、家族会での説明、文書による説明で理解・納得していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会に来られた家族には、面会記入表にご意見欄を設け、意見、要望を書いてもらっている。また家族会や運営推進会議等での意見も、運営に反映できるよう努めている。	面会記入表に意見欄を設け、意見や要望を記入してもらい、出された意見は即座に検討対応している。運営推進会議委員に家族の代表も含み、家族会開催に合わせ、不安や悩み事を聞き、サービスの質の向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から職員の意見、要望に耳を傾け、実施可能か精査し実施している。	日常介護をする上で感じた意見は個々に聴き取りや会議上での提案を受け、リーダーが中心になり、毎月各ユニット毎に検討会を開きサービスに反映させている。運営的な事項は、年に一回の研修会において夫々研究し、職員の遣り甲斐に繋げている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	透明性の高い給与規則を作り、誰もがわかり易く向上心が持てるよう環境整備した。また、労使委員会を設置しているため、労働条件改善等の交渉も行える環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間研修計画の中で全員が研修を受ける機会を設けている。また、当社で企画運営している小規模事業所向け研修も受講できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	企画運営している小規模事業所研修会では他事業所との交流ができ、互いに情報交換しサービス向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前には必ず事前訪問をし、必要に応じ数回の事前訪問を行い、顔なじみの関係作りを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごと、要望等を聞き、サービスに反映するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の意向を聞き、必要に応じて協力医とも連携し、その時必要な支援の検討をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ホームでの暮らしも今までの延長上にあると 考え、今までやられてきた事はご自分でやっ ていただき(調理、洗濯など)、お互いが暮ら しの仲間であると意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている。	面会時の食事介助や外出等を呼びかけ、実 施している。季節の行事の企画運営を家族 会と一緒にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている。	檀家寺の読経や、地域支援者や友人との外 出、面会の機会を設け、今までの関係が終 わらないよう努めている。	菩提寺の住職が読経や法話をしてくれる。理容師が定 期的に来てくれる等懐かしい馴染みの関係が継続出来 る様に努めている。時々学生が利用者を連れて近くの公 園等に散歩に連れて行ってってくれる等の行為により活気 に満ちた人間関係が確立されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている。	利用者一人ひとりの性格や行動特徴を把握 し、その人と気の合う関係を促し、時に職員 が間を取り持つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ホームで看取りをした家族とは、家族会主 催の行事に参加いただき関係を継続してい る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている。	本人の希望、意向をいえる関係作りに努め ている。また、日常の会話からえた情報をも とに、ケア会議にて検討している。	利用者に自分の生い立ち・希望・意向を直接またケアす る中で聞き、検討会でまとめ、利用者に納得できる環境 作りに努めている。家族からはこの様な事も出来るのか と改めて感心されたり、表現できない利用者には、良好 な環境で介護する様に努め、毎日の生活の中で、利用 者の態度・言動には配慮・把握し実践に活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている。	事前面接等で本人、家族の話をきくととも に、日常の会話から今までの暮らし方など の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている。	ケア会議の中で、その都度モニタリングを行 い、現状等の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している。	面会時に家族の意向を伺ったり、協力医等 から意見を伺ったりして、定期のケア会議に て本人の意向に則した介護計画作りをして いる。	本人の意見はもとより面会に来られた家族に意見を伺 い、協力医や関係者の意見も尊重し、ケア会議等で介護 計画を作成し、モニタリングを通して、本人が最適に暮ら せる介護環境づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録や申し送りノート等に、関わりや会話を記録し、日常の様子がわかるよう工夫し、職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	新たなニーズに対して、職員、家族等で話し合い、今までなじみの理髪店、かかりつけ医など家族に対応してもらうなど、本人の意向を尊重している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	福祉ひろばでの歌や健康体操に参加し、地域との繋がりが生きがいを感じられる支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医と連携し、本人、家族の希望や今までのかかりつけ医も受診しながら医療連携している。	協力医により定期的に健康管理を行っているが、本人家族等が今迄診療を受けていたかかりつけ医の診療を希望した時・協力医が今迄のかかりつけ医の診療が適当と判断された場合等は、本人や家族の期待に沿うよう配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	契約訪問看護ステーションが定期的に訪問しているので、相談連携している。また連絡ノートを用意し情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療相談員と連携し、退院1週間前に入院先関係者、家族と会議を持ち、医療引継ぎを行っている。その情報を協力医に伝え、連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に看取りケアをしていることを説明している。終末期になってきた時点で、家族、協力医と相談し、医療方針の同意書をもらい終末期ケアを実践している。	入所時に終末期ケアを行っていることを周知し理解を得ている。終末期に至った時には、家族や協力医と相談をし『ターミナルケアに関する同意書』を取り交し、終末期ケアを実施することとし、医療機関と連携しながら看取りも行い、家族の精神的安心感を持たせている。緊急時には緊急体制組織により連絡が素早く取れるようになっている。	終末期の看取りケアの実施については頭が下がる思いです。認知症の高齢者が対象であるが故に関係する方々のご苦労をお察します。住み慣れたところで穏やかに此処が終の棲家となる為の実践を心から望みます。ご本人・家族そして職員の心・精神的ケアのさらなる構築を望みます、
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変等の不測の事態に備え、マニュアルの作成、確認、訓練の実践を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	月1回の避難訓練のほか、年1回近隣住民の協力で夜間想定避難訓練を行なっている。また、災害に備え食料品や日用品の備蓄も行っている。	毎月一回避難訓練を実施している。夜間想定訓練は、年に一回行われ、消防団・町内会・民生委員・近所の方々などが参加され、利用者と触れ合いながら訓練に望んでいる。火災発生通報システムも導入され、火災発生と同時に自動通報されている。災害に備えて食糧品等の備蓄もされていた。	訓練には多くの住民等に参加して貰い、利用者にも環境や施設の内容を知って頂くことがいざという時にスムーズに避難させる事が出来るかと思えます。昼間訓練も住民及び関係者を含め実施され、夜間想定訓練でも夕間に迫った頃に行う等、現実にもマッチした訓練に近づけることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人や周りの人が不快に思う対応について話し合い、その人の尊厳を大切にする対応を心がけている。	職員は利用者の立場になって考える利用者本位のケアをすること心掛けている。そのため利用者の声は小さな言葉でも見逃さず把握し、永年社会に貢献した利用者を尊重した対応に努めている。利用者の人権について職員同士話し合い、お互いが不愉快な場面に遭遇しないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己表現しやすいように1対1の関わりや、答えやすいよう質問を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の状況によって柔軟に対応するように勤務者全員で意識し、散歩に行きたいと希望があれば散歩に出かけたりと利用者の希望に沿って過ごせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服購入の際は一緒に買い物に出かけたり、好みの色の服を選んで着られるよう努めている。また、クシ、ドライヤーなど自分ができる方にはやっていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	自家菜園での収穫など、食材準備の段階から食事が楽しみになるように工夫している。調理や片付けなど出来る範囲で携わっていただいている。	地産地消に心掛け、特に自家菜園で利用者が栽培した野菜を使つての料理に挑戦することも多い。利用者も自主的に調理や配膳に尽くされ、職員と談話しながら一緒に食事をされていた。またお血洗い等自主的に携わっていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量については個人記録に記録している。水分量については、医療的見地から必要な方については別に記録して把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアをおこなっている。ご自分でなさる方、介助が必要な方それぞれ個別で支援している。また、義歯使用の方は週3回義歯洗浄剤にて清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	定時の声かけや、トイレ誘導を行っている。また、日常の様子の変化などちょっとした動作を観察し、職員間で排泄リズムの検討を行っている。	利用者の一寸した動作から感じ取り排泄誘導を行っている。失敗しても職員間で排泄リズム検討会を持ち、本人が一時も早く快適な生活ができるように支援している。成功例も多い。職員の努力により現在オムツ対応者はいないと言う。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体操の時間に下腹部マッサージを採り入れたりしている。申し送りノートに排便に関する記録を残し、職員間で共有し水分量を増やしたりと排便を促すよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴希望がある方は希望に沿う入浴をしている。ない方は、入浴の好みや間隔を考慮し入浴している。また、拒否がある場合は無理に勧めず、本人の気分を優先させている。	毎日入浴できる体制を整えている。利用者の希望により、午前入浴と午後入浴に分けている。入浴拒否される方も衛生管理上、週に2回は入浴をされるよう図っている。入浴を好まない利用者には本人の心境などを考慮しながら気分転換を図った上で入浴できるように進めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	寝具は本人の馴染みのものを用意し、ベッドや布団敷きかも希望に沿っている。ホーム内にはソファや畳もあり、いつでも休息がとれる環境を用意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人記録に処方箋をファイルし、職員は必ず目を通すようにしている。薬が変わったり等変化があった場合は、その都度メモや会議等で周知徹底するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	花が好きな方は花壇作りや、音楽が好きな人はピアノをしたりと、個々の趣味にあった支援をしている。気分転換に近くの公園まで散歩に出かけたり、ホーム庭で食事をしたりと工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物などの同行や、ドライブなど本人の戸外へ行きたい希望があれば、できるだけ出かけるように努めている。	食材の買出し・個々の嗜好品等の買物に利用者と共に外出する。花見や遠足等行事には家族も同伴することも多い。近くにある公園に行き、色々な人々との触れ合いを楽しんでいる。日常の中で懐かしい場所へ行きたい要望があればドライブを兼ねて行けるよう配慮している。中学生・大学生・地域のボランティア等が外出支援に協力してくれる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理の希望者はいないため利用者は現在所持している人はいないが、預かり金については、希望があればいつでも使えるように管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や近所の友人に希望があれば電話している。携帯電話を持っている方は自由に家族、友人と連絡を取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースには出来るだけ不必要なものをおかないよう心がけている。ホール内には季節感が出るような飾り付けも行っている。	共用部分には季節感にあふれる飾り付けがされていた。そこには行事や日常生活での思い出写真、中学生等の作品を張り出され「ひだまり」の中にいるように感じた。亀やモルモット等も飼育、自主的に餌をやっており、利用者の張合いとなっている。部分的に畳敷きのスペースがあり、二人のお年寄りが畳の上に肘枕で横になり話題に華を咲かせている楽しそうな姿が目についた。トイレ等も無臭空間だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールのテーブル席は自由に座ることができる。ソファや畳、庭にある椅子も自由に使うことができるので、その人の居たい場所に居られるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の希望で和室、洋室を用意している。また、今までの馴染の調度品を持ち込んでいただき、馴染の空間になるよう努めている。	使い慣れた家具や仏壇等を置き、家庭的な雰囲気でご過ごしている。誰もが部屋に家族の写真や行事写真を貼り家族の絆を大事にしている。居室に何うと孫の写真を指差し家族の話題や若き頃の働き振りを話されたり、養蚕の一部始終を教えてくれた。趣味の自作品がたくさんあり、毛糸編み半纏やショール等を見せてくれた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内はバリアフリー設計で、手すり等配置している。階段にはラインテープを張り、安全に昇降できる工夫もしている。トイレ等の表示も多くわかりやすい表示にしている。		